

自由国民新聞

JIYU-KOKUMIN SHINBUN

2021(令和3)年
11月20日
第5号

発行所：自由国民連合
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸船町
2-15-9-901
TEL：03-6661-2525
FAX：03-6661-7829

改憲に潮目 総選挙後の絶妙布陣

10月31日投票が行われた第49回衆議院選挙は、自民不利、野党連合有利との大方の予想をくつがえし、自民党が261議席を獲得、過半数どころか、単独で「絶対安定多数」を確保する結果となった。立憲民主党、共産党とともに、公示前の議席を減らし、代わって維新の会が4倍増と大きく議席を伸ばした。

総選挙後、第二次岸田内閣は、小選挙区で敗れた甘利明幹事長の茂木敏充氏への交代とそれに伴う林芳正氏の新外相就任以外は留任に実施すべきだ」と述べ、より具体的な日程を提示した。「(参院選の)投票率も上がるし、大きな選挙のテーマにもなる」と

安倍長期政権が実現しえなかった

改憲実行への動き次々

となり、話題性の乏しい静かな船出となった。

これを一変させたのが、維新の会と国民民主党両トップによる改憲推進発言だ。

日本維新の会の松井一郎代表(大阪市長)は選挙直後の2日、

定例記者会見で、来夏の参院選までに憲法改正原案をまとめて改正を決議するよう促した。さらに、「国民投票を参院選の投票と同日



選挙後に第二次岸田政権の政策を発表する岸田文雄首相

という理由も述べた。維新の会は改憲論議を盛り上げ、次期参院選でのさらなる党勢拡大を狙っている。この危機の時代に改憲は票になる、と分析していることは明らかだ。

また、安倍政権時代から改憲に賛成を表明していた国民民主党の

玉木雄一郎代表も松井代表に呼応するように、テレビ番組やツイッ

ターなどで「憲法改正の議論を進める」などと発言し、各党で早急に憲法論議を深めるべきとの態度を示している。

両党は、吉村洋文副代表(大阪府知事)と、玉木代表が7日、フジテレビ系「日曜報道」に出演し、憲法改正議論の促進を目指す考えを一致を見せた。

吉村氏は「維新の会は改憲勢力

尊皇愛国・反共救国・保守団結・国際連帯——自由国民連合

だ。自民党は憲法改正を党是といいつつ、実は一部の保守層のガス抜きのためにやっているようなもの。本気で憲法改正をやろうと思っていない。自民党のヤルヤル詐欺に付き合うつもりはない」と述べ、憲法改正議論を進めない自民党の煮え切らない態度を批判した。

や法案提出で連携していく方針も確認するなど、共闘を形にする作業を進行中だ。

率いる安倍晋三元首相に近い。自民党内では「改憲に向かう環

境が整った」(幹部)との期待が高まっている。

公明党外しも可能

玉木氏も「自民党は本当にやる気があるのかと思うことが多々ある」と自民批判に同調、「憲法審査会は毎週開いたらいい。われわれ

一方、自民党側は、岸田首相が10日、総理指名後の各党への挨拶で日本維新の会を訪問した際、馬場幹事長から憲法改正を要請され、「しっかりと頭に入れて努力する」と答えた。これは霞が関用語の「前向きに検討します」や「ありません」と同様に受け止められ、後退発言として批判された。

こうした批判を受け、自民党は19日、憲法改正推進本部を「憲法改正実現本部」に改め、本部長に推進本部の本部長代行だった古屋圭司政調会長代行を充てることを決めた。

ここで注目したいのは、改憲をめぐる自民党と公明党の関係性だ。自民党のコアな保守系支持層にとって、公明党は厄介な存在だ。公明党を与党から切り離せという主張は以前から根強い。

岸田首相は首相官邸で古屋氏と会談し、「名称だけではなく、体制も変えてしっかりとやる気を示そう」と指示。古屋氏は「(改憲を)実現することが大切だ。その覚悟を示していく」と記者団に語っている。

最近では、6月16日閉会した通常国会で、国会での採択が検討されてきた、中国政府によるウイグル族などに対する人権侵害への非難決議が不成立に終わった。共産党さえ賛同していた同決議が実現できなかったのは、与党協議で公明党が反対したからだ。もちろん自

民党内親中派との結託によるものではあるが、公明党への配慮の結果であることは間違いない。

公明は現在与党である関係上、自民と並ぶ「改憲勢力」とみなされることが多いが、実体は「改憲反対派」である。そこで公明党を除き、自民、維新、国民を足してみると、313議席となり、改憲決議に必要な「3分の2」310議席を3議席も超える。

実現本部の事務総長には、新藤義孝・衆院憲法審査会与党筆頭幹事が就き、本党内に新設する「憲法改正・国民運動委員会」のトップも兼ねる。国民との対話集会や遊説を活性化させ、改憲に向けた

機運を高めたい意向だ。古屋、新藤両氏は、最大派閥・安倍派を

この条は触らずに「自衛隊」の存在を「加える」から改定ではない「加憲」などと称して抜本的改憲ではなく中途半端なものになっているのは、かまえて公明党のせいである。何かにつけ公明党が親中媚中となり、日本の国益に反する行動をとるのは、国民の生命、財産を守るためには危険すぎる。

しかし、今回の改憲の動きを数的に見ると、面白いことが分かる。10月の総選挙で各党が獲得した議席数を検討すると、自民261、公明32、維新41、国民11となっている。

これは議論するために歳費をいただいている」と、自公与党で3分の2の議席を確保しながら改憲論議に踏み切れないで来た自民党の尻を叩く姿勢を示した。

公明は現在与党である関係上、自民と並ぶ「改憲勢力」とみなされることが多いが、実体は「改憲反対派」である。そこで公明党を除き、自民、維新、国民を足してみると、313議席となり、改憲決議に必要な「3分の2」310議席を3議席も超える。

つまり憲法改正に公明党の協力が必要ない、との結論になる。自民党は親中反日の公明党のご機嫌や顔色をうかがうことなく、本当に現代日本にとって必要な憲法改正を行なうことが出来る。

これこそ総選挙の厳粛な結果としての「天の配剤」と呼ぶべきものではないだろうか。占領下の連合軍による押しつけ憲法制定から73年。ついに自主憲法制定への潮目が見え、とみるべきだろう。



総選挙後の記者会見で憲法改正の必要性に言及した日本維新の会の松井一郎代表(大阪市長)



憲法論議を深めるべきとの国民民主党の玉木雄一郎代表

安倍派を

安倍元総理が憲法9条の問題で、

安倍派を

自民全選挙区4議席確保

3区島尻氏、初当選 辺野古移設「容認」へ民意変化

衆院選沖縄選挙区

第49回衆院選の沖縄選挙区は、1区、2区では共産党、社民党がろうじて議席を守ったものの、3区、4区で自民党が接戦を制したほか、1区、2区でも比例復活し、全区で自民が議席を獲得した。沖縄の民意は、従来の米軍普天間飛行場の辺野古移設に反対する基地問題を争点にしてきた玉城デニー知事を支持する共産主導の「オール沖縄」勢力よりも、コロナ対策、経済復興を主張した自公政権の継続に評価を下した。基地の移設工事が進む名護市を抱える3区で移設容認する自民新人の島尻安伊子氏(56)が公明推薦で初めて勝利したことは、自公にとって意義深い。来年の1月の名護市長選をはじめ、夏の参院選、秋の知事選に向けて、保守・自公勢力に大いに弾みがついた。

自公、来年の参院選、知事選へ弾み

今回の衆院選は、これまで名護市辺野古では是非を問う基地問題よりも、新型コロナウイルスの対策と、感染拡大で長期的に落ち込んだ経済の立て直しや貧困対策、来年度の次期沖縄振興計画が主な争点となったのが特徴だ。コロナ禍で県民意識が変わってきた。共産が小選挙区で唯一議席を持つ1区では、共産の志位和夫委員長や小池晃書記長のほか、玉城知事、城間幹子那覇市長ら「オール沖縄」勢力が総動員で応援に駆け付けた。共産の赤嶺政賢氏(73)



自民の勝利を報じた地元紙(11月1日付)



菅義偉前首相とグータッチを交わす島尻安伊子氏

期沖縄振興計画など現実的に取り組む課題は山積している。私にはできる」と、岸田文雄首相の派閥議員として政権与党の強みを強調したが、及ばなかった。しかし、7月の那覇市議選での自民勝利を基礎に、最後まで票集めに尽力し九州ブロック比例で復活した。自民敗北の要因の一つに、元自民党衆議院議員で維新の会を除名になった無所属の下地幹郎氏(60)の出馬問題があった。下地陣営は、25年の政治実績と自民党復帰による保守一本化を訴えたが、自民党県連が拒否、党本部の現職優先の方針にも関わらず1区出馬に固執して、保守分裂を招いた。前回より得票を減らして落選保守勢力に対する共産への利敵行為にでるといふ政治生命を危うくする事態を招いた。下地氏が現状を考慮して、保守一本化を優先させれば、国場氏は、共産に勝てたはずである。自民県連としても課題を残した格好だ。

社民唯一の選挙区での議席を持つ2区は、普天間飛行場、嘉手納基地に連なる選挙区で、これまで革新が圧倒してきた。前職照屋寛徳氏の地盤継承の「後継候補」で社民新人の新垣邦男氏(65)に対して、自民前の宮崎政久氏(56)が公明推薦で三度目の挑戦。宮崎氏は、新垣氏の知名度の低さを踏まえ、衆院3期の実績を訴え大栗田の浦添市、宜野湾市の首長を選対本部長に迎えて保守、無党派層の浸透を図ったが、約1万票及ばなかった。

沖縄県小選挙区得票数

選挙区	当選者	所属	得票数
1区	赤嶺政賢(73)	共産	61,519
	國場幸之助(48)	自民	54,532
	下地幹郎(60)	無所属	29,827
2区	新垣邦男(65)	社民	74,665
	宮崎政久(56)	自民	64,542
	山川泰博(51)	維新	15,296
	中村幸也(41)	NHK党	3,053
3区	島尻安伊子(56)	自民	87,710
	屋良朝博(59)	立民	80,496
4区	西銘恒三郎(67)	自民	87,671
	金城徹(68)	立民	72,031

語り、県民、市民の考えが、基地よりも経済に変化しているのを肌身で感じたという。島尻陣営によると、島尻氏は19年の落選後も3区支部長として、3区地域を精力的に回り、元沖縄担当の経験を生かして政府与党との連携による沖縄振興予算獲得に励んできた。その結果、名護東道路を開通、沖縄自動車道から名護市街地までノンストップで行けるようになった。貧困対策、子育て支援も手掛けた。

「前回の選挙とは、県民、市民の反応が全く違う。市民は基地問題よりも、コロナ対策、景気回復、子育て、貧困対策など経済振興に関心があることを実感した。必ず勝ちます」投票日前日の打ち上げで、こう

今回の選挙で最大の焦点は、3区だった。これまで自民が一度も議席を確保したことのない3区しかも玉城知事の選挙地盤で、2019年の衆院補選で敗退した島尻氏が辺野古移設「容認」を掲げて、前回と同じ候補で基地反対の立民前職の屋良朝博氏(59)にどこまで迫れるか、注目された。

「前回の選挙とは、県民、市民の反応が全く違う。市民は基地問題よりも、コロナ対策、景気回復、子育て、貧困対策など経済振興に関心があることを実感した。必ず勝ちます」投票日前日の打ち上げで、こう

「この度は、いろいろな面で協力ありがとう。いい選挙になりました」(自民党県連幹部)選挙期間中、「オール沖縄」共産党と街宣で強く訴え、チラシ巻きなどの運動をしてきた自由国民連合沖縄県支部。各選挙区で自民候補勝利に少なからず影響を与えたことは間違いない。「反共救国」「保守団結」を掲げる自由国民連合の沖縄での今後の活躍が期待される。

遺志を引き継いで基地移設反対に重点をおいた政策を市民にアピールしたが、遠く及ばなかった。今回の衆院選は、県民が、島尻氏が打ち出した基地反対の「オール沖縄」勢力へ「NO」を突き付けるとともに、沖縄発展のための現実的政策を選択したことを浮き彫りにした。基地反対を重点政策にし、コロナ対策など現実的な対応に乏しい玉城県政への不信任の表れでもある。



1区で比例復活した国場幸之助氏(11月1日午前1時、国場選挙事務所)

新会員募集

尊皇愛国志士の皆様のご入会をお待ちしております

- ◎ 自主独立国家を目指し、自主憲法を制定しよう!
- ◎ 尖閣・沖縄を護り抜き、竹島、北方領土返還を実現しよう!
- ◎ 尊皇愛国で結束し、反日左翼勢力を一掃しよう!
- ◎ 人類の敵・中国共産党打倒、台湾関係法を制定しよう!

年会費：正会員12,000円、法人会員一口60,000円、特別会員一口100,000円
問い合わせ：自由国民連合本部 事務局
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-12-9-901
TEL 03-6661-2525 FAX 03-6661-7829
E-mail: jikokuren@gmail.com Youbube: 自国連チャンネル